

# 2014年度 第1四半期 決算説明会

富士フイルムホールディングス株式会社

2014年7月30日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

本日はお忙しいところお集まりいただき有難うございます。

富士フイルムホールディングス 2014年度第1四半期決算について  
ご説明させていただきます。

## 2014年度第1四半期 業績 (2014年4月~6月)

(単位:億円)

	2013年度1Q	2014年度1Q	対前年度
売上高	5,687 100%	5,584 100%	-103 -1.8%
営業利益	251 4.4%	298 5.3%	47 +18.8%
税金等調整前 四半期純利益	303 5.3%	299 5.3%	-4 -1.5%
当社株主帰属 四半期純利益	150 2.6%	154 2.8%	4 +2.8%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	31.03円	31.88円	0.85円
為替 :米ドル	99円	102円	3円安
:ユーロ	129円	140円	11円安

2

2014年度第1四半期の連結売上高は、  
 フォトイメージングやドキュメントが好調に推移したものの、  
 デジタルカメラの高級機種へのシフトに伴う販売台数の減少による売上減 などにより、前年同期比で1.8%減の5,584億円となりました。  
 国内では消費税増税による駆け込み需要の反動影響も受けました。

営業利益は、各事業における収益性改善などにより、前年同期比18.8%増の298億円となりました。減価償却方法の変更に伴う影響も寄与しております。

税金等調整前四半期純利益は、前年同期比1.5%減の299億円、  
 当社株主帰属四半期純利益は、前年同期比2.8%増の154億円となりました。

1株当たりの当社株主帰属四半期純利益は、31円88銭となりました。

## セグメント別：連結売上高／営業利益

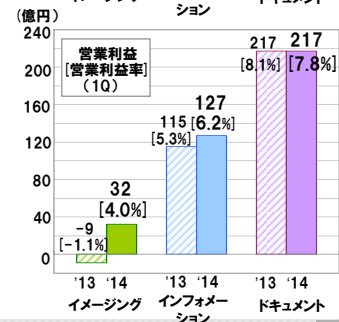
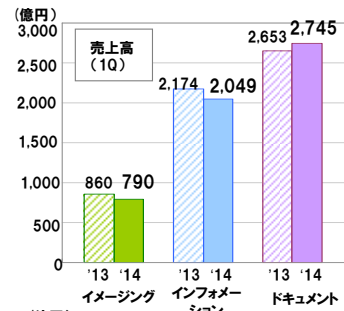
(単位:億円)

売上高	1Q		対前年度
	2013年度	2014年度	
イメージング	860	790	-70 (-8.1%)
インフォメーション	2,174	2,049	-125 (-5.8%)
ドキュメント	2,653	2,745	92 (+3.5%)
合計	5,687	5,584	-103 (-1.8%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益	1Q		対前年度
	2013年度	2014年度	
イメージング	-9	32	41 (黒字化)
インフォメーション	115	127	12 (+10.3%)
ドキュメント	217	217	-0 (-0.0%)
全社/連結調整	-72	-78	-6
合計	251	298	47 (+18.8%)



続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージングソリューション部門の売上高は、前年同期比8.1%減の790億円、営業利益は黒字化し32億円となりました。

インフォメーションソリューション部門の売上高は、前年同期比5.8%減の2,049億円、営業利益は10.3%増の127億円となりました。

ドキュメントソリューション部門の売上高は、前年同期比3.5%増の2,745億円、営業利益は横ばいの217億円となりました。

## セグメント別 概況

(単位:億円)

## ■ イメージング ソリューション

売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比
790	-70 (-8.1%)	32	41 (黒字化)

- フォトイメージングではインスタントカメラの販売が引き続き好調。  
「Year Album」などの付加価値プリントビジネスが拡大。
- 電子映像では、コンパクトデジタルカメラのラインアップを縮小し、販売台数が減少したことにより売上全体は減少したものの、Xシリーズの販売が好調に推移し、高級機種へのシフトの進捗は順調。
- 光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売が減少したものの、テレビカメラ用レンズなどの販売は堅調に推移。

減収となったものの、インスタントカメラの販売好調や、デジタルカメラの損益改善により、黒字を確保

イメージング ソリューション部門では、

フォトイメージングで、インスタントカメラの販売が引き続き好調に推移しました。また「Year Album」をはじめとしたフォトブックなどの付加価値プリントビジネスが 拡大しました。

電子映像では、コンパクトデジタルカメラのラインアップを縮小し、販売台数が減少したことにより全体で売上は減少したものの、「FUJIFILM X-T1」などのXシリーズの販売が好調に推移し、高級機種へのシフトが順調に進んでおります。

光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売が減少したものの、テレビカメラ用レンズなどの販売は堅調に推移しました。

イメージング ソリューション部門は、コンパクトデジタルカメラの販売台数の減少などにより減収となりましたが、インスタントカメラの販売好調や、デジタルカメラの 損益改善により増益し、黒字を確保しました。

## セグメント別 概況

## ■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比
2,049	-125 (-5.8%)	127	12 (+10.3%)

- ヘルスケアのうち、メディカルシステムは国内での消費税増税による駆け込み需要の反動影響を受けたものの、超音波診断装置などの販売が海外を中心に好調に推移。医薬品では、国内の抗菌薬市場全体が低調に推移する中で富山化学の「ゾシン」の販売は堅調に推移。
- フラットパネルディスプレイ材料は、デスクトップモニターの需要低迷や在庫調整の影響などによりWVフィルムの販売が減少したことに加え、販売が堅調に推移した液晶TV向けフィルムも前年同期が中国・北米でテレビ需要が旺盛だったことから、売上が減少。
- グラフィックシステムでは、国内での消費税増税による駆け込み需要の反動影響を受けたものの、欧州市場での販売が堅調に推移。
- 産業機材では、タッチパネル用センサーフィルムなどの一部販売遅れなどによって、売上が減少。電子材料では幅広い製品の販売が各地域で伸長し、売上が増加。

**FPD材料の売上減少などの影響で減収となったものの、各事業の収益性が改善したことなどにより、増益**

5

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、

メディカルシステムは国内での消費税増税による駆け込み需要の反動影響を受けたものの、超音波診断装置などの販売が海外を中心に好調に推移しました。

医薬品では、国内の抗菌薬市場全体が低調に推移する中で、富山化学の「ゾシン」の販売は堅調に推移しました。

フラットパネルディスプレイ材料は、デスクトップモニターの需要低迷や在庫調整の影響などによりWVフィルムの販売が減少したことに加え、販売が堅調に推移した液晶テレビ向けフィルムの販売も、前年同期が中国・北米でテレビ需要が旺盛だったことから、売上が減少しました。

グラフィックシステムでは、国内での消費税増税による駆け込み需要の反動影響を受けたものの、欧州市場での販売が堅調に推移しました。

産業機材では、タッチパネル用センサーフィルムなどの一部販売遅れなどにより売上が減少しましたが、電子材料では、幅広い製品の販売が各地域で伸長し、売上が増加しました。

インフォメーション ソリューション部門は、フラットパネルディスプレイ材料の売上減少などの影響で減収となったものの、各事業の収益性改善や減価償却方法の変更に伴う影響などにより、前年同期比で増益となりました。

## セグメント別 概況

## ■ ドキュメント ソリューション

(単位:億円)

売上高	前年同期比	営業利益	前年同期比
2,745	92 (+3.5%)	217	-0 (-0.0%)

- オフィスプロダクトの販売台数は、国内では前年度後半の需要増の反動や前年同期の大型案件の影響等により減少したものの、アジア・オセアニア地域ではモノクロ機、カラー機ともに増加。
- オフィスプリンターは国内、アジア・オセアニア地域においてモノクロ機の販売が増加。米国ゼロックス社向け輸出は、カラー機が好調で販売台数が増加。
- プロダクションサービスでは、国内、アジア・オセアニア地域での販売台数が減少したものの、米国ゼロックス社向け輸出では販売台数が増加。
- グローバルサービスは、国内、アジア・オセアニア地域において増収。国内では、MPSビジネスが好調に推移し、新たに連結対象となった富士ゼロックスサービスリンク株式会社の売上也寄与して増収。

**販売価格の下落と販売ミックスの変化による影響等をグローバルサービスの成長と経費効率化等の改善により補い、営業利益は前年同期並み**

6

続いてドキュメント ソリューション部門についてご説明します。

オフィスプロダクトの販売台数は、国内では前年度後半の需要増の反動や前年同期の大型案件の影響等により減少したものの、アジア・オセアニア地域ではモノクロ機・カラー機ともに増加しました。

オフィスプリンターは、国内、アジア・オセアニア地域においてモノクロ機の販売が増加しました。また、米国ゼロックス社向け輸出は、カラー機が好調で販売台数が増加しました。

プロダクションサービスでは、国内、アジア・オセアニア地域での販売台数が減少したものの、米国ゼロックス社向け輸出では販売台数が増加しました。

グローバルサービスでは、国内、アジア・オセアニア地域において増収しました。国内では、MPSビジネスが好調に推移したことに加え、三菱重工株式会社の連結子会社のドキュメント関連事業を承継した富士ゼロックスサービスリンク株式会社が新たに連結対象となり、売上が寄与して増収となりました。

ドキュメント ソリューション部門は、

販売価格の下落や販売ミックスの変化による影響等を受けたものの、グローバルサービスの成長と経費効率化等の改善により補い、営業利益は前年同期並みで着地しました。

## 連結貸借対照表

					(単位:億円)				
	12年度末	13年度末	14年6月末	対13年度末		12年度末	13年度末	14年6月末	対13年度末
現金及び現金同等物	4,454	6,046	6,322	276	長短社債及び借入金	3,583	3,597	3,423	-174
受取債権	5,889	6,368	5,595	-773	支払債務	2,510	2,659	2,475	-184
棚卸資産	3,999	3,637	3,788	151	その他流動固定負債	4,255	4,032	4,053	21
有価証券 その他流動資産	1,271	1,566	1,780	214	負債計	10,348	10,288	9,951	-337
流動資産計	15,613	17,617	17,485	-132	株主資本計	18,689	20,206	20,299	93
有形固定資産	5,461	5,303	5,242	-61	非支配持分	1,559	1,776	1,776	0
営業権	4,122	4,231	4,219	-12	純資産計	20,248	21,982	22,075	93
投資有価証券 その他資産	5,400	5,119	5,080	-39	負債・純資産合計	30,596	32,270	32,026	-244
固定資産計	14,983	14,653	14,541	-112	(単位:円)				
資産合計	30,596	32,270	32,026	-244	期末日 為替レート	12年度末	13年度末	14年6月末	対13年度末
					米ドル	94	103	101	2円高
					ユーロ	121	142	138	4円高

次に、バランスシートについてご説明します。

2014年6月末時点の資産は、2014年3月末時点と比べ

営業債権及びリース債権が減少したことなどにより、244億円減の3兆2,026億円となりました。

負債は、社債及び短期借入金が増加したことなどにより、337億円増の9,951億円となりました。

株主資本は、93億円増加し2兆299億円となりました。

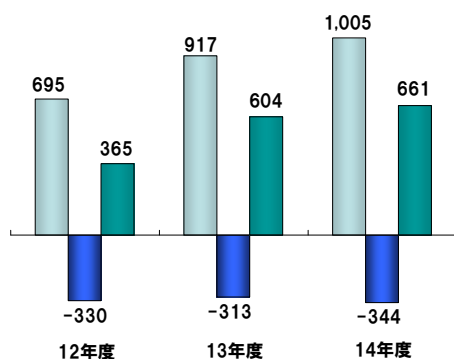
この結果、流動比率は前期末に比べ14.8ポイント増の310.2%、負債比率は1.9ポイント減の49.0%、株主資本比率は0.8ポイント増の63.4%となりました。

## キャッシュ・フロー

(単位:億円)

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー(1Q)



	12年度 1Q	13年度 1Q	14年度 1Q
四半期純利益	62	195	191
減価償却費	336	334	291
受取債権の増(-)減(+)	578	442	744
棚卸資産の増(-)減(+)	-262	-113	-166
営業債務の増(+)-減(-)	-183	-36	-134
未払法人税等他負債の増(+)-減(-)	164	201	190
その他	0	-106	-111
<b>営業活動によるCF</b>	<b>695</b>	<b>917</b>	<b>1,005</b>
設備投資	-217	-196	-160
ソフトウェアの購入	-36	-48	-40
有価証券・投資有価証券等の売却・購入	56	9	-90
その他	-133	-78	-54
<b>投資活動によるCF</b>	<b>-330</b>	<b>-313</b>	<b>-344</b>
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>365</b>	<b>604</b>	<b>661</b>
<b>営業活動によるCF+設備投資</b>	<b>478</b>	<b>721</b>	<b>845</b>

8

続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、1,005億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の購入などにより、344億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、661億円のプラスとなりました。

以上で2014年度第1四半期決算の説明とさせていただきます。



## 2014年度 連結業績予想 (2014年7月30日時点)

(単位:億円)

	2013年度	2014年度 (予想)	対前年度
売上高	24,400 100.0%	24,600 100.0%	200 +0.8%
営業利益	1,408 5.8%	1,600 6.5%	192 +13.6%
税金等調整前 当期純利益	1,572 6.4%	1,600 6.5%	28 +1.8%
当社株主帰属 当期純利益	810 3.3%	850 3.5%	40 +4.9%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	168.07円	176.36円	8.29円
為替 :米ドル	100円	100円	-
:ユーロ	134円	135円	1円安

\*2014年度 営業利益 為替感応度 米ドル:10億円、ユーロ8億円 原材料価格(銀): 80,000円/kg

9

続きまして、2014年度の連結業績予想ですが、  
2014年4月30日に発表済みの予想からは変更しておりません。

2014年度第1四半期は、売上高・利益ともに社内計画を上回って着地しました。  
この通期業績予想達成に向け順調に進捗しており、  
第2四半期以降も引き続き成長戦略を推進していきます。

80<sup>th</sup>  
Anniversary

# FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社  
経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>

以上、2014年度第1四半期決算及び2014年度の通期業績予想について、ご説明いたしました。  
ご静聴いただき、ありがとうございました。

2014年度第1四半期 決算説明会

**参考資料**

## 1Q 業績

## ■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	2013年度1Q	2014年度1Q	対前年度
フォトイメージング	485	489	4 (+0.9%)
電子映像	206	175	-31 (-15.4%)
光学デバイス	169	126	-43 (-25.1%)
光学・電子映像	375	301	-74 (-19.8%)
合計	860	790	-70 (-8.1%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

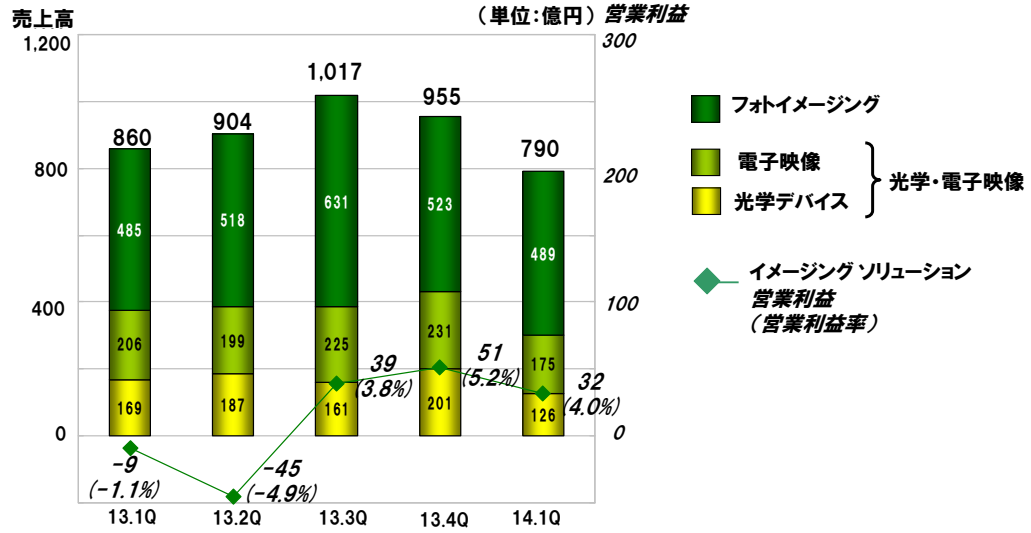
営業利益 [営業利益率]	2013年度1Q	2014年度1Q	対前年度
イメージング ソリューション	-9 [-1.1%]	32 [4.0%]	41 (黒字化)

12

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ イメージング ソリューション



\*セグメント間取引消去後

<当スライドは配付資料です>

## 1Q 業績

## ■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	2013年度1Q	2014年度1Q	対前年度
ヘルスケア	797	768	-29 (-3.7%)
グラフィックシステム	660	652	-8 (-1.2%)
フラットパネルディスプレイ材料	400	304	-96 (-24.1%)
記録メディア	109	105	-4 (-3.9%)
産業機材/電子材料他	208	220	12 (+5.8%)
合計	2,174	2,049	-125 (-5.8%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2013年度1Q	2014年度1Q	対前年度
インフォメーション ソリューション	115 [5.3%]	127 [6.2%]	12 (+10.3%)

14

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

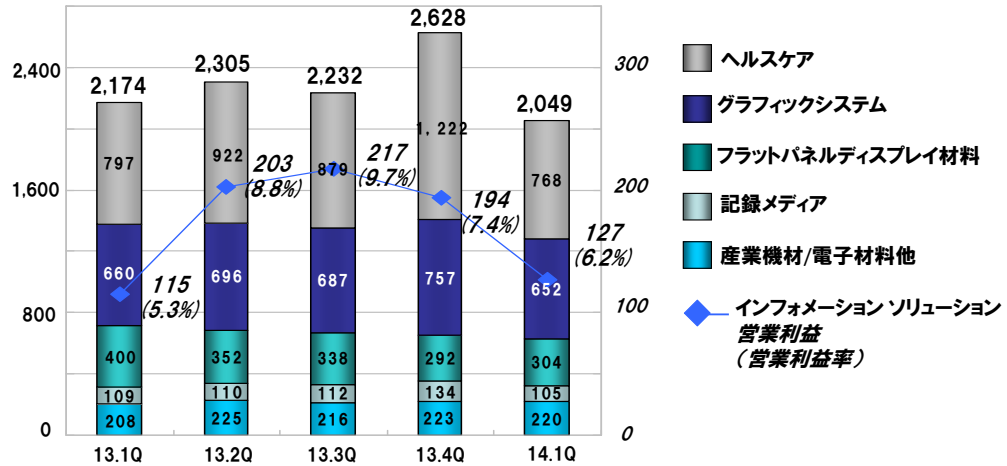
## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高

営業利益



\*セグメント間取引消去後

<当スライドは配付資料です>

## 1Q 業績

## ■ ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高	2013年度1Q	2014年度1Q	対前年度	
オフィスプロダクト	1,277	1,266	-11	(-0.9%)
オフィスプリンター	422	436	14	(+3.4%)
プロダクションサービス	359	343	-16	(-4.3%)
グローバルサービス	339	399	60	(+17.6%)
その他	256	301	45	(+17.8%)
合計	2,653	2,745	92	(+3.5%)

\*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2013年度1Q	2014年度1Q	対前年度	
ドキュメント ソリューション	217 [8.1%]	217 [7.8%]	-0	(-0.0%)

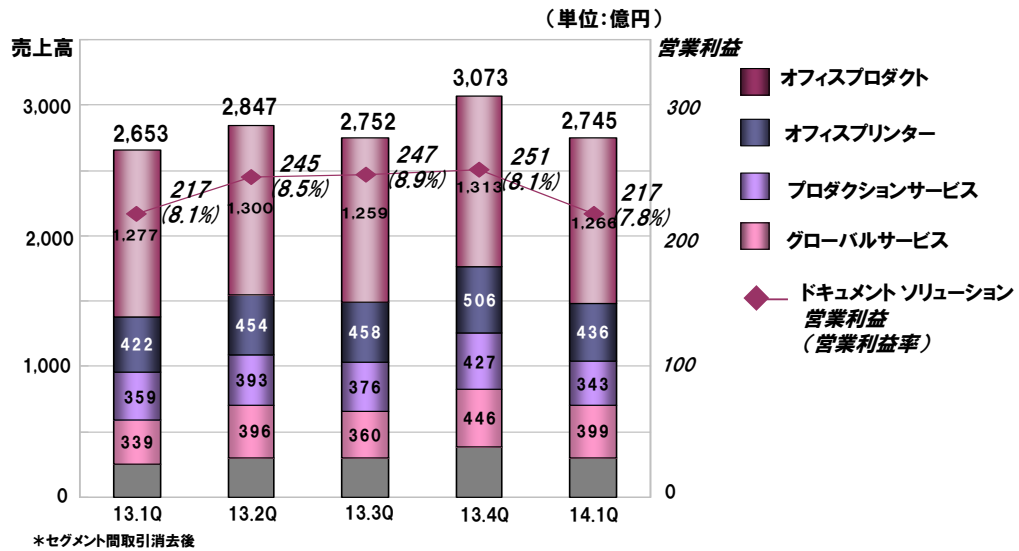
16

&lt;当スライドは配付資料です&gt;



## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ ドキュメントソリューション



<当スライドは配付資料です>

## 国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2013年度1Q		2014年度1Q		対前年度	
	構成比 (%)		構成比 (%)			
日本	41.1%	2,338	40.3%	2,253	-85	(-3.7%)
米州	18.2%	1,037	18.5%	1,035	-2	(-0.3%)
欧州	12.0%	683	12.9%	720	37	(+5.5%)
内、中国	11.1%	633	10.7%	592	-41	(-6.5%)
アジア他	28.7%	1,629	28.3%	1,576	-53	(-3.2%)
海外	58.9%	3,349	59.7%	3,331	-18	(-0.5%)
合計	100.0%	5,687	100.0%	5,584	-103	(-1.8%)

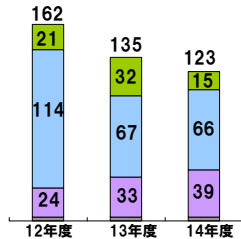
18

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

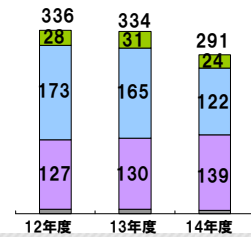
## 設備投資、減価償却費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

設備投資(1Q)



減価償却費(1Q)



(単位:億円)

	2012年度		2013年度		2014年度	
	1Q	通期	1Q	通期	1Q	通期 (予想)
イメージング	21	99	32	93	15	
インフォメーション	114	399	67	324	66	
ドキュメント	24	248	33	239	39	
コーポレート	3	21	3	14	3	
設備投資 ※	162	767	135	670	123	750
イメージング	28	133	31	135	24	
インフォメーション	173	718	165	686	122	
ドキュメント	127	531	130	561	139	
コーポレート	8	33	8	32	6	
減価償却費	336	1,415	334	1,414	291	1,200
有形固定資産の 減価償却費 ※	209	934	206	907	157	750

\*ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

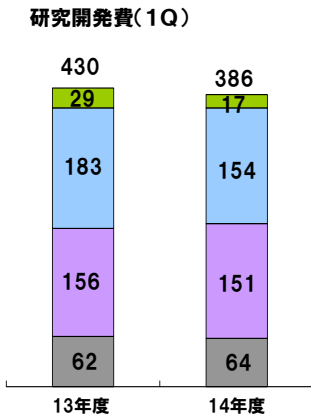
\*2014年度より、減価償却方法を変更しております。

<当スライドは配付資料です>

## 研究開発費、販売費および一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)



	2013年度		2014年度	
	1Q	通期	1Q	通期 (予想)
イメージング	29	61	17	-
インフォメーション	183	675	154	-
ドキュメント	156	634	151	-
コーポレート	62	274	64	-
<b>研究開発費</b>	<b>430</b>	<b>1,644</b>	<b>386</b>	<b>1,650</b>
<売上高比>	7.6%	6.7%	6.9%	6.7%
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>1,525</b>	<b>6,159</b>	<b>1,498</b>	<b>-</b>
<売上高比>	26.8%	25.2%	26.9%	-

<当スライドは配付資料です>

## 為替、原材料価格、人員

### 為替

(単位:円)

	2013年度					2014年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	通期(予想)
米ドル	99	99	101	103	100	102	100
ユーロ	129	131	137	141	134	140	135

\*2014年度 営業利益 為替感応度 米ドル:10億円、ユーロ8億円

### 原材料価格

(平均)

(単位:千円/kg)

	2013年度					2014年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	通期(予想)
銀	78	68	68	67	71	65	80

### 人員

(単位:人)

	2013.6末	2013.9末	2013.12末	2014.3末	2014.6末
連結	79,965	79,837	80,113	78,595	79,192

21

<当スライドは配付資料です>

## パイプライン

開発番号	薬効	剤形	地域	開発段階	備考
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	米国	P III実施中	国防省の助成金により臨床試験実施中 国内はアビガン錠として承認済み
T-3811	キノロン系合成抗菌薬	経口	中国	承認申請中	国内はジェニナック錠として上市済み
T-2307	抗真菌薬	注射	米国	P I 終了	
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	P II 実施中	Alzheimer's Disease Cooperative Studyと臨床試験実施中
			日本	P II 実施中	京都大学iPS細胞研究所との共同研究によりバイオマーカーの探索・特定を目指す
T-4288	マクロライド系抗菌薬	経口	日本	P I 実施中	
バイオ ITK-1	抗がん剤(前立腺がん)	注射	日本	P III 実施中	
FF-10501	抗がん剤(血液がん)	経口	日本	P I 実施中	
			米国	P I 準備中	
バイオ FF-21101	抗がん剤(難治性固形がん)(Armed抗体)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	MDアンダーソンがんセンター(米国)と臨床開発推進中
FF-10502	抗がん剤(難治性固形がん)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	
F-1311	放射性医薬品(前立腺がん診断用)		日本	P I 実施中	

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクスのFKB327(アダリムマブバイオシミラー)は、欧州でP I 実施中。

<当スライドは配付資料です>

## 参考情報

### **富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報**

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

### **富士フィルムホールディングス アニュアルレポート2014**

[http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual\\_reports/2014/index.html](http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual_reports/2014/index.html)

### **IRイベント資料**

[http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir\\_events/business\\_presentations/index.html](http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html)

#### ・事業説明会資料

- 2013年 11月 メディカルシステム事業説明会
- 2013年 11月 医薬品事業説明会

### **富士フィルムってどんな会社？**

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

<当スライドは配付資料です>